

<福島県教育長賞>

税の本質と誤解

郡山市立郡山第二中学校 3年 須賀 心美

「本日のニュースは最近話題の103万円の壁についてです。」

私は大人達がこの話題についてとても興味を示しているのが不思議だった。正直、私は税に関して知識は無いし興味もなかった。しかし母がこの先生きていく上で知っているに越したことはないし無知のまま大人になったら苦労するよと教えてくれた。その時私は税に対して少し恐怖を覚えた。果たして税金は本当に怖いものなのだろうか。

そもそも、税金とは何か。国税庁によると税とは社会を支える会費のようなものと書いてあった。会費を納めることで私達の生活は守られより豊かになっている。具体的には、どのようなサービスだろう。もしも税金がなかったらごみ収集や交番が有料になってしまう。その中でも一番驚いた事は救急車が有料になってしまう事だ。その時はお金のことなんて考えていなかったが今になって振り返ると私が乗った救急車にはお金がかかっていた。そして、その代金は税金から賄われていたのだ。もしも税金がなかったら緊急事態であってもお金がないから救急車を呼べなくなってしまう。このように、安全が保障されないケースが出てきてしまうのだ。また、税金は皆さんが思っているよりもかけ離れている存在ではない。私達中学生であっても税金を納めている。例えば消費税だ。消費税とは洋服や日用品を購入したりするとかかるものである。たかが消費税であっても国のために使われより豊かになっているのは、事実である。私はふと疑問に

思った。果たして税金にはメリットしかないのだろうか。この問題と密接に関わってくるのが、少子高齢化だ。国税庁によると、日本の人口は2004年をピークに減少し21世紀半ばには2.5人に1人が65歳以上の高齢者となる「超高齢者社会」になると言われている。高齢者が増えることにより税金が使われている医療、年金、介護などに必要なお金が増えていくことになるのだ。これから私たちが大人になっていく過程でより深刻な問題になるだろう。そのため、社会の変化に合わせて税の仕組みを考えていく必要がある。

日常と結びつけ自分事として考えを巡らせある事に気がついた。私たちは「無関心」である。税の仕組みを知らずただ支払うだけのお金に本来の意味はあるのだろうか。増税や減税など各々の意見がぶつかる世の中で本質を理解し発言することが大切だと思う。税金は日本を助け豊かにし、私達国民を守る大切なものなのだから。私は税金を誤解していたのだと改めて気がつくいい機会になった。これからも関心を持ちつづけていきたい。